

2020年人気本（予約ベスト）

期間：2019年11月21日～2020年11月20日

図書名	著者	出版者	図書名	著者	出版者
1 半沢直樹 アルルカンと 道化師	池井戸潤	講談社	11 スキマワラシ	恩田陸	集英社
2 クスノキの番人	東野圭吾	実業之日本社	11 もう、聞こえない	誉田哲也	幻冬舎
3 少年と犬	馳星周	文藝春秋	13 カケラ	湊かなえ	集英社
4 ぼくはイエローでホワイト で、ちょっとブルー	ブレイディ みかこ	新潮社	14 逆ソクラテス	伊坂幸太郎	集英社
5 灯台からの響き	宮本輝	集英社	14 法廷遊戯	五十嵐律人	講談社
6 流浪の月	風良ゆう	東京創元社	16 始まりの木	夏川草介	小学館
7 11文字の殺人	東野圭吾	光文社	17 「繊細さん」の本	武田友紀	飛鳥新社
8 ライオンのおやつ	小川糸	ポプラ社	17 とわの庭	小川糸	新潮社
8 滅びの前のシャングリラ	風良ゆう	中央公論新社	19 一人称単数	村上春樹	文藝春秋
10 JR 上野駅公園口	柳美里	河出書房新社	19 隣はシリアルキラー	中山七里	集英社

### 2020私が選んだ3冊

2020年はなんといっても、新型コロナウイルス感染防止に追われた日々でした。「ソーシャルディスタンス」「3密」「ステイホーム」など、たくさんの言葉が飛び交いました。

さて、本の世界は？今年の出版の本や話題になった本から、図書館員が3冊選びました。本選びの一助になれば幸いです。そしてあなたも、「今年の本」を見つけて記録してください。

きっと後々、「あんな時代があった」と思える日が来ますから。

#### 『雲を紡ぐ』

伊吹有喜／著（文藝春秋）**小説 913.6 17\***

家にも学校にも居場所がない美緒は、家出して岩手の父の実家に。そこでは祖父が毛織物の工房を営んでいて、美緒はその仕事に魅せられる。父は工房を継がなかったが、羊毛は雲のようで「うちの仕事は雲を紡ぐことだと思ってた」という。仕事にはとことんこだわる祖父の優しさに包まれて、美緒は進む道を見つける。

#### 『孤塁 双葉郡消防士たちの3・11』

吉田千亜／著（岩波書店）**社会 369.3 ㉔**

著者は東日本大震災の際の原発事故について、2018年10月から福島県双葉消防本部に通い、原発事故当時に活動し現在も活動を続けている66人から話を聞いた。悲惨な体験談を聞き出すことも、さらにそれを文章にするにも葛藤があったが、彼らの「忘れないでほしい」という言葉に背中を押され本を完成させた。

#### 『兄の終い』

村井理子／著（CCCメディアハウス）**実録 916 47**

翻訳家・エッセイストである著者の実兄が宮城県内で急死したと連絡が入る。兄の火葬、アパートの片付け・引き払い、廃車手続きをすませ、兄と暮らしていた甥を離婚した実母と暮らせるようにした怒涛の5日間。疎遠だった兄の生活・人柄に触れた戸惑いと驚きを、明るく、ときにしんみりと綴ったノンフィクション。

（桜ヶ丘分館 可児）

#### 『将棋指しの腹のうち』

先崎学／著（文藝春秋）**将棋 796.0 ㉔**

うつ病から完全復活した先崎九段が、将棋会館近くの食べ物屋さんでの棋士たちのエピソードを面白おかしく語ります。食事でもですが、酒席での話が多い。必然的に、失敗談が多い！羽生九段も加藤一二三九段も女流棋士も登場。対局中の将棋メシとは一味違う、食べ物とお酒と棋士を巡るエッセイをお楽しみください。

#### 『無限の中心で』

まはら三桃／著（講談社）**児童 KY913 ㉔**

あなたは数学がお好きですか？この本の数学研究部の面々は半端なく大好き。ある時、部室に置かれた未解答の問題が、知らぬ間に解いてある謎な出来事が立て続けに起きます。誰が解いた？主人公のとわは、解答の文字に既視感がありました。数学嫌いな人も大丈夫。純粋に数学が好きで好きな高校生の思いが心に刺さる本。

#### 『目でみる数字』

岡部敬史／文（東京書籍）**数学 410.4 ㉔**

自然界の数字の規則性にも、人間が作ったものにも、調べてみればちゃんと意味がある。「八つ手」のはっぱはなぜ7つに裂けている？七味唐辛子と八宝菜、数字の必然性は？虫の声は電話で聞くことができないってなぜ？さまざまな謎が明解に解かれ、「おお！」とすっきりすること必至。

（帷子分館 瀬尾）

## 『一人称単数』 村上春樹／著（文藝春秋）小説 913.6 ㍷

表題の他、全部で8作からなる短編集。現実と異世界の境界に私たちは生きていて、わずかなことでそれを踏み越えてしまうのかもしれない…。村上春樹本人も登場し、まるで私小説かエッセイかと思わせるような内容です。従来のような作品から、新しい世界観の作品まで春樹ワールドを楽しめると思います。

## 『破局』 遠野遥／著（河出書房新社）小説 913.6 ㍴

芥川賞受賞作品。主人公の一人称で語られます。優秀でスポーツマン。非の打ち所が無い主人公が身を滅ぼしてしまうまでの顛末。何気ない日常に深くあいた落とし穴、それは果たして本人だけの問題だったのでしょうか？ 読後に背筋が寒くなるような恐ろしさを感じます。

## 『画家とモデル』 中野京子／著（新潮社）絵画 723.3 ㍴

描きたい、描いてもらいたいという双方の気持ちが入った絵は、絵の中に関係性が滲み出てきます。当時噂があったゴヤとアルバ公爵夫人の本当の間柄や、ワイエスのヘルガへの思いなど画家とモデルの関係が詳細に書かれています。芸術が完成するまでの秘密を覗くようです。（帷子分館 濱口）

## 『おいしい昆虫記』

佐伯真二郎／著（ナツメ社）民俗 383.8 ㍴

国際連合食糧農業機関（FAO）が人口爆発の有効な一手としてあげたのが栄養価の高い昆虫食。この本は昆虫食学というよりは、著者の「昆虫食専門家」として、文化の異なるラオスでの奮闘努力記。また、魅惑の昆虫レシピなど、話題が幅広くとにかく面白いです。昆虫図鑑に「味」の項目が追加される日も近い？

## 『辰野勇 モンベルの原点、山の美学』

辰野勇／著（平凡社）伝記 289.1 ㍴

著者は登山用品メーカー「モンベル」の創業者。少年時代に読んだ「白い蜘蛛」が人生の方向を決めたそうです。たった一冊の本が山とのきっかけを作り、アイガー北壁の登攀を果たし、モンベルを創業するなんて驚きです。著者の山への情熱と冒険心が生み出したモンベル。改めて惹かれます。

## 『ゾンビのホラーちゃん』4

バルバラ・カンティーニ／作（文化学園文化出版局）児童 K973 ㍴

オソロシ屋敷に住むホラーちゃんとその家族のほんのちょっぴり怖くて楽しいお話。今回は、いとこのデーモンが住むオスマシ屋敷が売却されそうに…。好奇心旺盛なホラーちゃんが、とにかくキュート！（注意：ゾンビなので、手足はとれます。）（帷子分館 三浦裕）

## 『ザリガニの鳴くところ』

ディーリア・オーエンズ／著（早川書房）外国文学 933.7 ㍴

人間社会からの偏見や差別と闘いながら、湿地の中でただ一人逞しく生きる少女カイア。ある日、彼女に殺人の容疑がかかり、事件は思いもかけない結末へと収束していく。動物学者である著者の知見と経験が込められた異色のミステリー。

## 『雲を紡ぐ』

伊吹有喜／著（文藝春秋）小説 913.6 ㍴

壊れかけた家族のもとを離れ、祖父の住む岩手に向かった美緒。美しい岩手の自然に囲まれながら、羊毛の手仕事を通して、力強く未来へ歩き出す姿を描く。岩城山や宮沢賢治など、盛岡の自然や街の魅力も満載で、一度岩手に足を運んでみたくくなります。

## 『なんで僕に聞くんだらう。』

幡野広志／著（幻冬舎）人生訓 159 ㍴

ガンで余命宣告された写真家が、寄せられた多種多様な人生相談に答える。すべての質問に対し、我が子から聞かれたつもりで答えているという幡野さんの言葉は、優しく時に容赦ない。人生を俯瞰した著者ならではの、力強い言葉に圧倒されます。（帷子分館 磯道）

## 『その犬の名を誰も知らない』

嘉悦洋／著（小学館集英社ブロンクショ）実録 916 ㍴

『南極物語』のタロとジロのことはご存知の方も多いでしょう。ですが、なぜ22頭の樺太犬のうち、年若く経験値が少ないはずのタロとジロだけが厳しい南極を生きぬくことができたのでしょうか。その背景には、実はタロとジロを導いた“第三の犬”の存在があったのです。

## 『ワイルドサイドをほっつき歩け』

ブレイディみかこ／著（筑摩書房）社会 302.3 ㍴

前作『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』では、イギリスの若年層の世界を通して人種問題について描いていましたが、今回はイギリス労働者階級の中年のおっさん達を通して、様々なイギリスの問題を浮かび上がらせています。どちらも内容に反してとても読みやすく考えさせられます。

## 『少年と犬』

馳星周／著（文藝春秋）小説 913.6 ㍴

家族のために犯罪に手を染めた男。仲間割れを起こした窃盗団の男。壊れかけた夫婦。体を売って男に貢ぐ女。老漁師。震災のショックで心を閉ざした少年。これらの人に共通することは、多聞という名の一匹の犬と出会ったということ。人間と犬とのキヅナを描いた作品です。（本館 篠田）

## 『TOKYO ストラディバリウス 1800 日戦記』

中澤創太／著（日経 BP）音楽 763.4 ㍴

ヴァイオリン最高峰である21挺のストラディバリウスが日本にやって来ました。ヴァイオリンの素晴らしさを伝えたいという著者の情熱が世界をうごかし、このイベントが開かれたのです。自分の目で見たい、自分の耳で聞きたいと思える1冊です。

## 『西洋奇譚』

中野京子／著（中央公論新社）民俗 388.3 ㍴

世界には不思議で不可解な出来事が起きています。そんな科学や合理性では解明できないことが集められた本です。読んでいてもうーんと考えてしまいます。どこかに相応の理由、あるいは真実が隠れているのかもしれませんが。

## 『水指（淡交別冊 愛蔵版 No. 77）』

（淡交社）茶道 791.5 ㍴

茶道具といえば茶碗、茶入が浮かびますが、水指も大切にされてきました。清水をたたえる器として茶席の中では存在感があります。この本には名品と呼ばれる水指が紹介されています。様々な水指から季節が感じられるはずですよ。（本館 三浦緑）

『猫と暮らしている人のやさしくわかる防災と避難』 小林元郎／監修（ナツメ社）**ペット 645.7ネ**

特に気まぐれな猫はもしもの時にどうすれば良いか、準備、避難、避難先、時間の経過でわかりやすく説明されています。準備の段階で必要なものだけでなく、下調べや、アクシデントの対応なども知っておくと安心です。

『志村けん「笑いの神様」の一生』 しむけん研究会編集部／著（辰巳出版）**芸能 799.9ジ**

志村けんさんのお客さんを大切にしている姿勢、笑いに対する熱くて筋の通った考え方、動物を愛する心、先輩に愛され、後輩を大切に慕われる姿など、エピソードや人柄など丁寧に書かれています。志村けんさんを失った寂しさと愛が詰まった一冊です。

『わけあって絶滅しました。も〜っと』 丸山貴史／著（ダイヤモンド社）**児童 482マ3**

絶滅してしまった生物のエピソードや、理由などがユニークに書かれています。注目したいのは絶滅しそうな動物たちの原因や現状です。絶滅を防ぐには？子どもだけでなく大人も楽しく知ることができ、何かできることはないか考える良い機会になる一冊です。（本館 副島）

## 『ホハレ峠 ダムに沈んだ徳山村百年の軌跡』

大西暢夫／写真・文（彩流社）**伝記 289.1ヒ**

日本最大の貯水量を誇る揖斐川町の徳山ダム。ダムの底にはかつて村があり、人々の暮らしがありました。著者は写真に記録するためダムに沈む前の村に通い、ゆきえばあちゃんと出会います。そして、質素ながらも、季節の移ろいを大切にしている豊かな山の暮らしがある事を知ります。徳山村最後の命の記録です。

## 『世界の美しくてミステリアスな場所』

パインターナショナル／編著（パインターナショナル）**地理 290.8セ**

まさに、表紙のミステリアスな写真に魅かれ、思わず手に取った本です。一見美しいけれどぞっとするようなエピソードがあったり、見るからに不思議だったり。怖いもの見たさでページを開いてみたくくなります。非日常の怪奇な世界を楽しんでください。

## 『1日10分のごほうび』

赤川次郎 他／著（双葉社）**小説 913.6イ**

NHK 国際放送で17ヶ国語に翻訳して朗読された小説の中から、人気作家8名の短編を収録。ベテラン作家からショートショートで話題の作家まで、個性豊かな作品が揃います。始めから読むか、気になる作家の作品から読むかはあなた次第。ちょっと一息したい時、ほっこりできる一冊です。（帷子分館 倉知）

## 『世界 244 の国と地域 2021～2022 年版』

『地球の歩き方』編集室／著（ダイヤモンド・ビッグ社）

**地理 290セ21**

海外旅行ガイドブックを作り続けて40年の『地球の歩き方』が出版した、世界197カ国と47地域を解説した1冊。国とは何ぞやということから始まり、各国の基本情報はもちろんいろいろな豆知識や旅の雑学が満載で、読み物として楽しいガイドブックです。

## 『生き物の死にざま はかない命の物語』

稲垣栄洋／著（草思社）**生物 481.7イ**

昨年の出版に続く第2弾。今回も動物や昆虫、果ては草木に至るまでさまざまな生き物の懸命に生きて命尽きる姿が描かれています。絶食して卵をあたためるコウテイペンギン、動きを操られてしまうカタツムリ…。死にざまとは生きざまだと強く感じさせられます。

## 『仕事本 わたしたちの緊急事態日記』

左右社編集部／編（左右社）**実録 916シヨ**

さまざまな職業の人たち77人の緊急事態宣言真っ只中の日記が収録されています。職種にやや偏りは感じますが、ごみ清掃員や教育関係者、医療従事者の方など決して己の生活と無関係ではない職種もあり、いろいろな視点での当時を垣間見ることができます。（帷子分館 長江）

## 『コロナ後の世界を語る』

養老孟司 他／著（朝日新聞出版）**医療 498.6コ**

今年はコロナに明け暮れた年でした。収束がつかないコロナとどう向き合っていけばよいのかを、各分野の専門家たちが語っています。様々な視点からの意見は、この状況下でもりがちな視野を広げてくれます。堅苦しくなく読みやすい一冊です。

## 『みんなの園芸店』

大野八生／著（福音館書店）**園芸 620オ**

これから庭を造りたい人、まったく心得のない人、造れたらいいなあと思っている人にお勧めです。季節ごとに咲く花、実のなる木、春夏秋冬の手入れ、園芸店に出かけてわいわい相談するように、家族みんなで楽しめる本です。

## 『アルジェリア、シャラ通りの小さな書店』

カウテル・アディミ／著（作品社）**外国文学 953.7ア**

21歳で『真の富』という書店を開いたエドモン・シャルロ。カミュを世に送り出し、フランスの占領下にあるアルジェリアで逮捕や襲撃を受けながらも、出版と書店経営を続けた実在の人物の話です。読後の余韻に浸りたい方、お勧めです。（本館 林）

## 『仕事本 わたしたちの緊急事態日記』

左右社編集部／編（左右社）**実録 916シヨ**

緊急事態宣言発令後の、さまざまな職業の人たちのそれぞれの4月の日記。今思うと、先の見えない不安が最も強かった頃だったのでしょうか。そんな中で変わらず働き続ける人、働き方を変えざるを得なかった人。どの立場の人へも共感と感謝が湧きます。2020年という特別な年の、特別な記録のひとつと言えるでしょう。

## 『いちばんやさしい自宅トレBOOK』

中野ジェームズ修一／著（宝島社）**スポーツ 780.7ナ**

長引く自粛生活で運動不足が気になる中高年の方々におススメ。「いちばんやさしい」のタイトル通り、とてもお手軽です。私は夏から本書の[ロコモ予防トレーニング ちょろいコース]を実践、できた日はカレンダーに丸を付けて励みにしています。「はじめてみようかな」という気にさせてくれる1冊です。

## 『ただいま神様当番』

青山美智子／著（宝島社）**小説 913.6アオ**

いつもどこか重苦しさにつきまといわれているような気分の昨今、お話の中くらいはほっこりしたい、そんな時に。この本の登場人物たちがつきまといられるのは、なんと、神様！およそ神さまらしくない神様に振り回されるうち、各人の抱える悩みや鬱屈が少しずつ変化していき…。あたたかな読後感の1冊です。（本館 熊崎）


**『熊谷守一わたしはわたし』** 熊谷守一／著（求龍堂）**絵画 723.1カ**

シンプルを極めた「モリカズ様式」で知られる、付知出身の画家、熊谷守一。幼い頃の家族との離別、3人の子供の死…。その波乱に満ちた生涯を辿りながら、解説と共に作品を深く味わうことができます。

**『小川洋子と読む内田百間アンソロジー』** 内田百間／著、小川洋子／編（筑摩書房）**小説 913.6カ**

めし屋で偶然隣り合わせた四、五人の客が、なぜか自分のことを話している。実は、そのうちの一人は天国へ逝ったはずの「あの人」だった…という『冥途』ほか、23篇を収録。小川洋子さんの解説に深く領きます。

**『ゼロから理解するITテクノロジー図鑑』**

岩崎美苗子／文、三津田治夫／監修（プレジデント社）**情報 007.1**

「半導体ってなに？」息子からの質問に答えられなかった私ですが、この本のおかげで説明ができました！

聞いたことはあるけれど実はよく分からないIT用語が、イラストと簡潔な文章で解説されており、お子さまにもお勧めです。  
(桜ヶ丘分館 堀)

**『SNS暴力』**

毎日新聞取材班／著（毎日新聞出版）**情報 007.3カ**

突然の炎上、誹謗、中傷、SNSがなぜ人に不幸をもたらす凶器として使われてしまうのか？取材で浮かんできたのは、被害者には誰でもなりうるし、加害者は私たちとかけ離れた特別な人たちではないということが浮き彫りになった。匿名の刃から身を守る方法を伝えています。

**『少年と犬』**

馳星周／著（文藝春秋）**小説 913.6ハカ**

大震災から半年。家族のために犯罪に手をそめた男が拾った犬。その犬は、ある意思を秘めていた。犬は飼い主を変えながら、ひたすら西を目指している。傷つき、悩み、惑う人たちに寄り添う一編ごとの物語が心を打ちます。

**『第九の波』**

チェ・ウンミ／著（書肆侃侃房）**外国文学 929.1カ**

原発の誘致をめぐる対立、カルト宗教団の問題などが混在する町。この町で保健所に勤めるソン・イナは日々の仕事に忙殺されていた。が、やがて、18年前に起こった石灰鉱山にまつわる謎の死の記憶がよみがえってきて…。2012年に韓国江原道で実際に起こった事件をモチーフにしています。  
(本館 饒村)

**『鳴く虫「音声」図鑑』**

奥山風太郎、上田秀雄／著（ディスクユニオン）

**生物 486.4カ**

散歩や仕事帰り、窓を開けて家にいる時など、耳にはするけれど、何の虫の声かな？と思ったことはありませんか。スズムシ、キリギリス、コオロギなど全52種類の虫の鳴き声の特徴と聞き分け方が紹介され、QRコードをかざすと鳴き声も再生されます。

**『山のリスクマネジメント』**

山と渓谷社／編（山と渓谷社）**登山 786.1カ**

観光地化された低山だから、何十年も登山しているから私は大丈夫ということはありません。足を挫く、迷子になるこれも遭難です。「まさか自分が遭難するとは…」。山に潜む数々の危険な対処法が学べる1冊です。

**『オーケストラをつくろう』**

メアリー・オールド／文（BL出版）**児童 K764カ**

オーケストラコンサート開催まで、選曲、たくさんの演奏者のオーディション、リハーサルまでの流れがわかり、楽器の演奏のしかたや特徴をわかりやすく紹介しています。ロンドン交響楽団の演奏を収めたCD2枚付き。  
(本館 溝口)

**『今日からできる！暮らしの感染対策バイブル』**

堀成美／監修（主婦の友社）**医療 498.6カ**

新型コロナの流行で一変した私たちの生活。暮らしの中で生まれた感染症への165の疑問への具体的な対策をQ&A方式で解説します。毎日不安に思いながら暮らしている人も多いと思います。正しい対策を知れば、少しでも安心して暮らせるのではと思います。是非参考に見てはいかがでしょうか。

**『罪の声』**

塩田武士／著（講談社）**小説 913.6カ**

「グリコ・森永事件」の脅迫テープが自分の声だったら…。昭和の未解決事件のグリコ森永事件を題材に、著者オリジナルのストーリーを重ねた小説です。冒頭から、一気に物語に引き込まれ、フィクションでありながら、ノンフィクションのような感覚に陥ります。今年人気俳優を主演に映画化されました。

**『60分でわかるカミュの「ペスト」』**

大竹裕／著（あさ出版）**外国文学 953.7カ**

カミュの名作『ペスト』をマンガとあらずで紹介した本。アルジェリアの町に突然ペストが発生し、ロックダウンされた社会の中で、人々の行動や心理状態を描いた作品です。新型コロナの流行によって今こそ読むべき名作ではないでしょうか。『ペスト』は難しいなあという方にはこちらがお勧めです。  
(本館 樫山)

**『ペスト』** カミュ／著（新潮社）**外国文学 953カ**

コロナ禍、注目された小説『ペスト』。1940年代のアルジェリアの都市で、ネズミが大量死したことから始まったペスト。経験したことのないウイルスに翻弄されるひとの姿は、医学が進歩した現代においても、重なる部分は驚くほどに多い。70年以上も前に出版された、ノーベル賞作家カミュの作品。

**『志村けん160の言葉』**

志村けん／著（青志社）**芸能 779.9カ**

2020年3月に亡くなった志村けんさん。父親が教員ということもあり、厳しい家庭で育ったけんさんの楽しみは、学校で友達を笑わせることだった。「お笑いは、一瞬でも嫌なことを忘れさせてくれるからいいんだ。」けんさんのお笑いへの愛と、ひたむきな生き方から溢れ出た言葉の数々。

**『うちの父が運転をやめません』**

垣谷美雨／著（KADOKAWA）**小説 913.6カ**

高齢者ドライバーの事故が相次ぎ、「免許の返納を！」と言うけれど…。高齢者には、運転せざるを得ない理由があるのである。返納後の生活を、社会や家族はサポートできるのだろうか？それぞれの立場に共感しながらも、いずれは向かい会わなくてはいけないテーマに、「面白かった」では終われない1冊。  
(桜ヶ丘分館 春日井)

『考えるナメクジ』

松尾亮太／著（さくら舎）**生物 484.6マ**

ナメクジの脳の大きさは1.5ミリ角くらいだそうです。しかし、1回の学習で数週間記憶を保持できたり、前脳葉が1ヵ月で再生したりと、人間をしのぐ脳力を持ち合わせています。また、殻を脱いだナメクジは、殻を維持するカルシウムのコストダウンにも成功し、機敏に動き、生き残る術を身につけたそうです。

『たちどまって考える』

ヤマザキマリ／著（中央公論新社）**医療 498.6ヤ**

旅が日常だった著者ですが、家の中でも映画や文学に親しむことで、旅と同様、人類の多様性を知ることが出来るそうです。今のような時期の鑑賞に、私の大好きな映画『リトル・ダンサー』を勧めているのも嬉しいです。群れ社会で生きる人間の習性を観察することで、自分のエネルギーを呼び覚ましてくれる作品だと紹介しています。

『ワトソンカ』

大山誠一郎／著（光文社）**小説 913.6材**

警視庁捜査一課の和戸宗志には、特殊な能力がある。そばにいる人々の推理力を飛躍的に高め、事件を解決に向かわせてしまう能力である。シャーロックホームズのそばには、いつもワトソンがいたように……。

名探偵のように、一緒に謎解きを楽しんでみませんか。（桜ヶ丘分館 松浦）

『ユニークな「日本文化」論』

大森和夫、大森弘子／編著（朝日新聞出版）

**社会 302.1コ**

世界で日本語を学ぶ人たちが、64の国と地域からよせられた作文が紹介されています。世界では、こんなにも多くの方が日本に関心を持ち、言葉や文化を学んでくださっているのかと驚きと喜びを感じました。私たちが気づいていない視点からの意見も多く、日本で学び暮らす各国の人々に理解を深め、交流し、彼らの「日本愛」に込めてあげたいと思いました。

『ぼくは6歳、紅茶プランテーションで生まれて。』

栗原俊輔／著（合同出版）**農業 617.4ク**

近年流行中の「ミルクティー」。私たちが楽しんでる紅茶の葉は、なぜ安価なのか？紅茶を生産する前世紀の遺産「プランテーション」。そこで生まれた子どもたちには未来の選択肢がないことに衝撃を受けました。世界に未だ存在する差別と貧困問題とともに、私たちには何ができるのかを考えさせられた本です。

『天離り果つる国』上・下

宮本昌孝／著（PHP研究所）**小説 913.6シ**

飛騨白川郷にあったとされる「帰雲城」。武田、上杉、そして織田、本願寺、それぞれの思惑が、山深き里へ食指を伸ばす！城主の内ヶ嶋氏理は郷民とともに、郷を守り抜き、独立の道を歩む決断をするのですが…。内ヶ嶋の姫と竹中半兵衛の弟子・七龍太の恋、飛騨の雄大な自然も描かれ、魅力ある1冊でした。（本館 福井）

『熱源』 川越宗一／著（文藝春秋）**小説 913.6カ**

樺太に生まれ、北海道内に集団移住したアイヌのヤマヨネクフは、日本人として生きることを余儀なくされる。一方で、故郷を追われたポーランド人の囚人が樺太に送られる。明治維新から太平洋戦争終焉までの樺太（サハリン）に生き、同化政策と闘い続けた人々の歴史を描く。第162回直木賞受賞作。

『その名を暴け』 ジョディ・カンター、ミーガン・トゥーイー／著（新潮社）**社会 368.6カ**

ハリウッドの有名プロデューサーによる長年の性暴力を記事にするため奔走した新聞記者たちの記録。多数の女性が被害を受けながら、沈黙させられてきた理由は何か？性暴力被害の立証の難しさに嘆息し、記者たちと加害者側との熾烈な情報戦争には、思わず息をのむ。

『ほんとうのリーダーのみついかた』 梨木香歩／著（岩波書店）**エッセイ 914.6チ**

コロナ禍に翻弄されたこの一年、人間の愚かさや浅はかさを目にして、何を信じ誰についていけばいいのか迷った方は多いはず。ぜひそんな方に読んでいただきたい。高校生など若い人を対象にした2015年の講演録であるが、この時代に最も必要とされる知恵なのではなからうか。（本館 長谷川）

アンケート

あなたの「2020年に私が読んだこの本！」をおしえてください！

1年間に読んだ本の中で、よかったものやお勧めしたいものを書いてください。

- ①タイトル ②著者名、出版社名 ③かんたんな内容紹介
- ④あなたのお名前（ペンネーム可）

- 出版年の古い本や図書館にない本でもOKです。
- 内容を確認のうえ、可児市立図書館ウェブサイトで紹介させていただきます。
- 本館・分館に備え付けの「私が読んだこの本！アンケート」用紙に書いて、アンケートボックスに入れてください。

● E-mailでも受付。①から④までもれなく書き、件名を「私が読んだこの本」として送信してください。宛先 [tosyokan@city.kani.lg.jp](mailto:tosyokan@city.kani.lg.jp)



12月1日から  
1月31日まで

## あたらしく入った本

分類	書名	著者名	出版者名
哲学・心理学			
104/カ/	<b>人生のレシピ</b> 「太った豚よりも、痩せたソクラテスであれ」というけれど、ソクラテスって太ってなかったっけ？ 哲学者・神崎繁が残した知的ユーモア溢れるエッセイ集。「日本哲学史」の可能性」など、2本の論文も収録する。	神崎繁／著	岩波書店
146.8/タ/	<b>「繊細さん」の知恵袋</b> どうやったら人に頼ったり自分の弱みを見せたりできる？ 上手に仕事を断るには？ 繊細なHSPの人たちから集めた「仕事や人間関係を乗り切る知恵」を紹介する。使えるフレーズやリアルな体験談が満載。	武田友紀／著	マガジンハウス
歴史・伝記、地理			
215.5/セ/	<b>占領期の名古屋</b> 株式会社青柳総本家所蔵の「後藤敬一郎関係写真資料」から、占領期の名古屋の写真に注目。1945年10月から約1年半にわたって、名古屋を中心に、豊橋、蒲郡、岡崎、犬山などを撮影した写真を収録。未公開写真も多数掲載。	阿部英樹／編	風媒社
289.1/ア/	<b>光秀を追う</b> 光秀を書くということは、本能寺の変をどう考えるかということと切り離すことはできない。織田信長研究で知られる著者が「敵役」の明智光秀を描く。『岐阜新聞』連載をもとに加筆して単行本化。	土山公仁／著	岐阜新聞社
290.9/カ/	<b>そこにある山</b> 人はなぜ冒険し、山に登るのか。「永久にわからないだろう」と思い続けてきた謎を解き明かしたのは、まさかの「結婚」だった!? <事態>と<思いつき>を鍵につむぎだす人生論の極北。	角幡唯介／著	中央公論新社
社会			
320.4/キ/	<b>いまはそれアウトです!</b> ネット上の写真を勝手に使うと「著作権侵害」、SNSでデマ情報を流すと「偽計業務妨害」。「ついやってしまいがち」な事例を86個取り上げ、なぜ「アウト」なのか、どんな罪に当たるのかをわかりやすく解説する。	菊間千乃／著	アスコム
336.4/ア/	<b>オンライン講座を頼まれた時に読む本</b> リアルとは勝手が違うオンライン講座を成功させるためのさまざまなコツやノウハウを紹介し、オンライン講座配信システムの基本的な機能の活用法や、配信環境の整備の仕方などを解説する。	天笠淳／著	日経BP
自然科学・医学			
451.9/ミ/	<b>47都道府県知っておきたい気象・気象災害がわかる事典</b> 災害から身を守る有効な方法は、過去の災害を知り、これから起こる災害に備えること。都道府県ごとに気象の傾向と被害の大きかった気象災害をまとめ、各地に伝わる災害にまつわるエピソードや災害時に活躍した人なども紹介。	三隅良平／著	ベレ出版
486.7/カ/	<b>あしなが蜂と暮らした夏</b> 40年以上前の初夏、京都市郊外。きゃべつ畑で写生をしていた著者は、青虫狩りをするあしなが蜂に魅せられる。蜂の巣を東京に持ち帰り、幼虫を育て。誕生から死までを見つめたひと夏の記憶。	甲斐信枝／著	中央公論新社
498.6/ワ/	<b>私たちはどう生きるか コロナと向き合う</b> あさのあつこ、山中伸弥らによる、これからの生き方を問う力強くしなやかなメッセージ。ロバートキャンベル×若松英輔の対談も収録。コロナ禍で揺らぐ心を支える一冊。	福岡伸一／[ほか著]	婦人之友社
技術・家政			
519.1/ニ/	<b>木のストロー</b> 森林保全の過程で発生した間伐材の活用と、使い捨てプラスチック問題の解決のため、ど素人の住宅会社広報担当が「木のストロー」制作に立ち上がった。木のストローを普遍性のあるビジネスモデルに展開するまでのストーリー。	西口彩乃／著	扶桑社
527.3/タ/	<b>愛せるキッチン、愛する暮らし</b> 本当に楽しいのは、きっとこれから！ オーダーキッチンのプロが、リフォーム事例を紹介するとともに、人生のセカンドステージが輝く居場所づくりについて綴る。	田原由紀子／著	光文社

産業			
654.8/ハ/	<b>けものが街にやってくる</b>	羽澄俊裕／著	地人書館
	早く手をつけないと大変なことになる! 野生動物がもたらす災害リスクの問題をテーマに、人口減少問題、国土計画、解決に向けた課題について解説。コロナ禍の今、この問題に取り組みずには新しい社会の構築はありえないと説く。		
675/コ/	<b>サブスクリプション</b>	小宮紳一／著	創元社
	所有から利用への大転換。現代型サブスクリプションを中心に、サブスクリプション・ビジネスの全体像とそれを支えるデジタルテクノロジーの関係を、イラストや図版を使ってわかりやすく解説する。		
絵画、工芸			
726.6/ニ	<b>えんとつ町のプペル</b>	にしのあきひろ／著	幻冬舎
	信じぬくんだ。たとえひとりになっても。えんとつだらけの町。そこに住むひとは、黒い煙にとじこめられて、青い空を知りません。えんとつそうじ屋の少年ルビッチは、ハロウィンの日にあらわれたゴミ人間のプペルと出会い…。		
751.1/カ/	<b>もっと知りたいやきもの</b>	柏木麻里／著	東京美術
	楽しくやきものを知ることができる一冊。縄文土器から、昭和の陶芸家の思いを宿す作品まで、大づかみに日本のやきものをひもとくとともに、いくつかの話題に深く踏み込んで、やきものの豊かな魅力を紹介する。		
語学			
816.8/チ/	<b>中学生の頭の中身をのぞいたら、未来が明るくなりました。</b>	なりたい大人研究所／編	KTC 中央出版
	やさしい大人、ありのままの大人、夢を追いかける大人、挑戦する大人…。2019 年実施「なりたい大人作文コンクール」応募、全国の中学生 17,353 人の作品から選んだ、105 名の「なりたい大人像」を掲載する。		
830.7/ハ/	<b>中学英語から始める洋書の世界</b>	林剛司／著	青春出版社
	大ヒット映画の原作から、近年の名著まで、洋書の人気作や話題作をポイント解説付きで難易度別に紹介する。洋書を無理なく、楽しく読むコツが満載。『Asahi Weekly』連載をもとに書籍化。		
日本文学—小説			
913.6/アイ/	<b>アンダークラス</b>	相場英雄／著	小学館
	老人施設入居者の死体が発見された。容疑者は施設で働くベトナム人アイン。ガンを患う入居者に請われて、自殺を幫助したという。だが、警視庁継続捜査班の田川信一は…。		
913.6/アオ/	<b>江戸染まぬ</b>	青山文平／著	文藝春秋
	旗本の次男坊の俺は、兄が好意を寄せている下女にちょっかいを出そうとするが、その前に彼女は身籠る。父親は隠居の祖父だという。69 歳の老人に女で負けた俺は…。「台」はじめ全 7 編を収録。		
913.6/アオ/	<b>みがわり</b>	青山七恵／著	幻冬舎
	駆け出し作家の律は、ファンを名乗る女性から亡き姉の伝記執筆の依頼を受ける。その姉は、生前の姿形が律と瓜二つだったという。取材を進めるうち、姉妹の確執、家族の秘密が明らかになり…。		
913.6/イフ/	<b>犬がいた季節</b>	伊吹有喜／著	双葉社
	ある日、高校に迷い込んだ子犬。生徒と学校生活を送ってゆくなかで、その瞳に映ったものとは。昭和から平成、そして令和へ。いつの時代も変わらぬ青春のきらめきや切なさを描く。		
913.6/エン/	<b>影に対して</b>	遠藤周作／著	新潮社
	両親が別れた時、少年の取った選択は生涯ついてまわった。完成しながらも発表されず、手許に残された「影に対して」を中心に、「雑種の犬」「影法師」「還りなん」など、母をめぐる書かれた著者の作品全 7 篇を収録。		
913.6/オガ/	<b>とわの庭</b>	小川糸／著	新潮社
	帰って来ない母を<とわ>は一人で待ち続ける。<とわ>に力を与えてくれたのは、ピアノの音、手製の雑巾、犬のジョイ…。草木や花々、鳥の声。生命の力に支えられ、光に守られて生き抜く少女を描いた書下ろし長篇小説。		
913.6/キタ/	<b>浅草迄</b>	北野武／著	河出書房新社
	舞台は戦後から高度成長期に沸く東京。初めての記憶から、オリンピックを経て、学生運動の気運高まる時代の中、新宿を彷徨っていた大学時代まで、北野武の原点を描く私小説。		

913.6/コス/	<b>死の扉</b> 青年の死は「積極的安楽死」だったのか!? 担当医の起訴を悩む若き検事は、忌避してきた自身と過去と向き合うことになり…。長編検察ミステリー。	小杉健治／著	双葉社
913.6/サカ/	<b>絶局 本能寺異聞</b> 「信長公の首級は何処にある」 囲碁名人・本因坊算砂は、対局中の徳川家康からの問いに息が詰まり…。400年の謎に触れた若き日の本因坊算砂を描く歴史小説。	坂岡真／著	小学館
913.6/サカ/	<b>アンと愛情</b> 成人式を迎えるアンちゃん。大人になるには、まだ早い気がするけど、それでも時間は進むし、世の中は待ってくれません。おいしいおやつを食べて、前を向いて…。	坂木司／著	光文社
913.6/セオ/	<b>夜明けのすべて</b> PMS(月経前症候群)でイライラが抑えられない美紗は、パニック障害で生きがいも気力も失っている山添に当たってしまう。だが、おせっかい者同士のふたりは…。暗闇に光が差し込む、心に優しい物語。	瀬尾まいこ／著	水鈴社
913.6/ナカ/	<b>復讐の協奏曲(コンチェルト)</b> 30年前に少女を惨殺した過去を持つ弁護士・御子柴の事務所に多数の懲戒請求書が届く。処理に忙殺されるなか事務員の洋子が夕食をともにした男が遺体で見つかり、洋子が殺人容疑で逮捕され…。	中山七里／著	講談社
913.6/ヤマ/	<b>肉体のジェンダーを笑うな</b> 父の胸から「母乳」ならぬ「父乳」が出たら? ロボット技術で男女の体力差が消滅したら? 驚くべき想像力で、性差が減った未来をユーモラスに描く4編の小説集。	山崎ナオコーラ／著	集英社
913.6/ヨシ/	<b>湖の女たち</b> 琵琶湖近くの介護療養施設で、100歳の男が殺された。刑事と容疑者、出会うはずのない男女の人生が交差する。一方、事件を取材する記者は、死亡した男の過去に興味を抱き旧満州を訪ね…。	吉田修一／著	新潮社

## 本館 1 階 の 展 示

■ 12 / 13 (日) まで ■

可児市人権啓発センター、人づくり課

**合同人権展** 12月4日から10日は人権週間です。人権とは自分が自分らしく生きるための権利。誰もが身近にある人権問題についてこの機会に考えてみませんか。

■ 12 / 16 (水) ~ 1 / 28 (木) ■

**牛のめぐみ展**

2021年はうし年です。牛乳(バター・チーズ)、牛肉、牛革など、牛から受けているたくさんの「めぐみ」について思いを馳せて見ましょう。

年末年始にたくさん本を読んでいただけるよう、下記の期間、貸出冊数の上限を変更します。

期間：12月8日(火)～27日(日)

貸出冊数：1人15冊まで(うち視聴覚資料は7点まで)

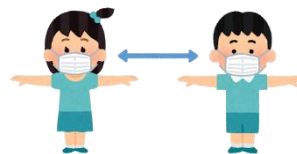
この期間中は、貸出期間も通常の2週間より長くなります。

予約受付件数は7点までで変更ありません。



図書館利用に際してのお願い

- ・ 来館前に自宅などで検温し、体調が悪い場合は来館をご遠慮ください。
- ・ 入館時には、マスクの着用と、手指の消毒をお願いします。
- ・ 本などに触れる前・後には、手洗いをお願いします。



**開館時間【本館】** 平日 10:00～19:00、土日祝 10:00～17:00  
【分館】 全日 9:00～17:00

**休館日** 毎週月曜日(12月7,14,21)  
年末年始(12月28日～1月4日)

スマートフォン用  
サイト



「図書館だより」2020年12月号

発行：可児市立図書館 電話(0574)62-5120

資料検索・予約は <http://www.kani-lib.jp/> をどうぞご利用ください。

よいお年をお迎えください。